

宮島みやじま
(大野恵造おおのけいぞう)

巖島いつくしまの 宮潮みやうしほ 満ち 来れば

孤影こえいを 泛うかべて 華表とりいは 朱しゆなり

社殿しゃでんの 下した 汐しほ 干ひき去されば

神かん 寂さびたる 古いにしえの 藻苔もたいは 蒼あおし

巖島宮潮満来 泛孤影華表朱
社殿下汐干去 神寂古藻苔蒼

解説 海上に浮かぶ朱の大鳥居と社殿で知られる巖島神社は、平安時代末期に平清盛が厚く庇護ひごしたことで大きく発展した。皇族・貴族や武将、商人たちが奉納した美術工芸品・武器類にも貴重なものが多く、中でも清盛が奉納した「平家納経」は、平家の栄華を天下に示すものとして豪華絢爛たる装飾が施されており、日本美術史上特筆すべき作品の一つとされる。

語釈 ※巖島Ⅱ巖島は、日本の広島県宮島町にある島。瀬戸内海西部、広島湾の北西部に位置する。通称は宮島みやじま。また安芸の宮島ともいう。
※潮Ⅱ
潮流。海流。※華表かひょうⅡ近世以前の文献では「華表」と書いて「トリイ」と訓ずる例が散見され、古くから日本の鳥居の起源ではないかとする説が存在する。

通釈 巖島神社に潮が満ちると、ものさびしそうに見える鳥居は一層赤くなる。社殿の下の汐が引き汐しほで無くなると、古くから付着している藻が青々しく見え始める。